



YAMATO-NAKA ROTARY CLUB

1642号

会長	横澤 創	会長エレクト	岸 幸博	事務所	大和市大和南2丁目1番1号
副会長	松崎正実	幹事	入江公敏		大和中央ビル 301
会報委員会	小柳智裕	阿萬正巳	後藤定毅		TEL 046-262-1717 FAX 046-262-1818
	古郡 清	石川達男			E-mail : naka-office@ynrc.jp
例会場	八千代銀行 大和支店 4F (毎週木曜日)				URL : http://www.ynrc.jp

国際ロータリーテーマ

Peace Through Service

「奉仕を通じて平和を」

RI会長 田中作次

大和中ロータリークラブ会長ターゲット

週一度 みんなに会える 楽しみ

【本日のプログラム】 10月11日 ガバナー公式訪問「菅原光志ガバナーを迎えて」 第3回クラブ協議会
 【次回予告】 10月20、21日 地区大会 場所 七里ヶ浜高校・鎌倉プリンスホテル

【第1637例会】平成24年10月4日(木) 【司会SAA】 鈴木 洋子 君 【斉唱】 「奉仕の理想」
 【ソングリーダー】 石川 達男 君 【ゲスト】 斉忠良 様(米山奨学生)

会長の時間 横澤 創 会長

- ・米山奨学生の斉忠良君がお見えですので奨学金をお渡します。
- ・R財団よりベネファクターの感謝状が横澤創会員に届いております。

地区大会において当クラブが3件の表彰を受けることになりました。

- ①最高の会員維持率達成クラブ表彰
- ②米山記念奨学会寄付優秀クラブ(1人当たり)第3位表彰
- ③藤田会員が長寿会員表彰

菅原光志ガバナーの公式訪問を来週に控え、先週は壽永純昭ガバナー補佐を迎えてのクラブ協議会が開催されました。壽永AGは卓話の時間で今のロータリーの置かれている状況を以下のように説明されました。「100年を過ぎたロータリーが今のままでは次の100年を継続することが出来ない。そのためにRIは大きく舵を切る必要性があった。それはRI戦略計画で策定された三つのロードマップ「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共イメージと認知度の強化」を基本目標に定め、六つの重点分野を推進することが奉仕の第2世紀を迎えたロータリーの明確なる方向性である」と、言われました。

ロータリーが増強により強靱な筋肉を身につけて、あらゆる革新を実行していく必要に迫られていることは理解できます。しかし、ロータリーには語り継がなければならない精神、守らなければならない伝統文化もあると思います。

ロータリーは今、その総括をしないままに奉仕の第2世紀に突入しようとしているように思います。

例えば出席について、クラブ会報1638号コラムに掲載されていますが、例会は週一度の濃密な出会いを保証し、その中で自己研さんを積み、親睦を土台に信頼を築き、相互扶助の機会と奉仕の機会を生み出す意味で出席の重要性を説明されています。しかし、聞くとところによると例会は2週間ごとのクラブがあったり、Eクラブが出現して出会いの場がパソコン上であったり、出席を参加と読み変えたりと、ロータリーの「そもそもの精神」さえ曖昧になっているようです。

守るべき伝統は何か、必要とされる革新は何かを考えるに当たり、ロータリーの、他団体とは違う特徴を洗い出すことによって、ロータリーの本質が見えてくるのではないのでしょうか。

例えば会員入会のプロセスで秘密裏に進めるのは何故か。職業分類にこだわるのは何故か。綱領に職業奉仕を掲げているのは何故か。一業種一人の規定を100年も守ったのは何故か。

ガバナー公式訪問をよい機会ととらえ、会員の

会員数	出席者	出席率	前々回修正	出席免除	欠席者 2名(敬称略)
40名	35名	94.59%	94.74%	7名	小柳、野口

皆さんと共に具体的に「守る伝統は何か」「必要とされる革新は何か」を考える協議会に出来ればと思います。

そして、地区で唯一のRI役員である菅原ガバナーに「伝統と革新」についてのロータリー観を語っていただき、「ロータリーはどこに向かうのか」を御指導頂きたいと思います。

幹事報告 入江 公敏 幹事

- ①10/11はガバナー公式訪問です。終了は14:30の予定です。会員全員の参加をお願いします。
- ②第44回ロータリアン親睦テニス会が11月13日湘南ローンテニスクラブにて開催されます。
- ③地区大会会場に、「国際奉仕」展示コーナーが設置されます。

委員会報告

R情報委員会 石川 健次 委員長

- ①先週の壽永AGの事前訪問でご紹介頂いた、「わかりやすいロータリー」の冊子を本日配布いたしました。
- ②6月の東慶州RC会長離就任式で、写真入りの垂れ幕が掛かっていました。先の後藤会員の歩さんの婚礼で、ソウルに行った時に頂きましたので、ご披露します。

お祝いの方々

親睦活動委員会 石川 達男 委員
会員誕生日 小柳 智裕 君 10月4日
結婚記念日 岸 幸博 君 10月7日

3分間スピーチ 石川 健次

私の店では、現在2つのRCに例会場を提供しています。細かいことは省きますが、実は純粋な採算ベースでは割が合わないのです。

ホテル業界では、RCに例会場を提供することは非常に名誉なことで、ホテルのステータスの証だそうです。中華料理屋ではそんなことはありません。

グランドホテル閉館後は2つのRCが例会場で苦勞されていましたが、ホテル関係者のボヤキから、もし話が来てもお断りしようと考えていました。

しかし、ロータリアンは普段の大事なお客様でもあり、これも職業奉仕の一つと心変わりをして、例会場をお引き受けしました。

当時の会長・幹事には非常に感謝されましたが、今ではそれも薄れました。事情を知らない会員からは普段以上に厳しい注文が出ることもありますが、これも仕事ですから僅かでも利益が出ていれば私

はOKです。

申し上げたいのは、当たり前のように使っているこの例会場のことです。八千代銀行さんのご好意で、会場費はおろか光熱費さえ一切お支払いしていません。私の試算では、他クラブより毎回一人5~600円以上は節約しているはずで、年間にしたらかなりの金額です。

先週のクラブ協議会で、会計の後藤さんからクラブの収支は健全という報告がありましたが、こういう恵まれた理由もあると思います。

これは立派な職業奉仕ではないでしょうか。年に一度くらいはこのことを思い出して、八千代銀行さんと岩松支店長の尽力への感謝の気持ちが必要だと思います。

卓話

「米山月間にあたり」

米山奨学委員会 古郡 清 委員長

米山記念奨学事業についてアンケート調査をしたところ、会員歴が短い会員ほど米山を知らないとの事です。その結果、寄付金への協力の度合いが低くなります。寄付をして頂くための3点です。

- ①米山記念奨学事業について知ってもらうこと
- ②米山奨学生に接してもらうこと
- ③事業の意義について理解して頂くこと

R米山記念奨学事業とは、勉学や研究を志して日本に来た外国人留学生に対して、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として奨学金を支給して支援することです。

この事業は、日本最初のRC設立に貢献した米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。この事業の使命は将来、日本と世界とを結ぶ架け橋となって国際社会で活躍して、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。

あゆみについては、1952年、東京RCが米山梅吉氏の遺徳を偲んで「米山基金」という名称で「ひと月にたばこ1箱を節約して」というスローガンから寄付金を集めて、奨学生の第一号としてタイよりソムチャード君が日本に来ました。

アジア人留学生の面倒を見ていた米山梅吉氏の意志を引き継いで、二度と戦争を繰り返さない為、国際親善と世界の平和に寄与したいという願いがありました。

日本では全国で約2,300のRCがあります。そのうちの1つのクラブが1人の奨学生の世話クラブとなります。奨学生は世話クラブの例会に1ヶ月1回出席して交流をしてロータリーに対して理解を深め奉仕の心を学びます。また世話クラブのメンバーの中から1人カウンセラーとなり、奨学生の相談相手

となって、安心して留学生を送れるように面倒をみるわけです。また、奨学生は例会に出席することだけではなく、奉仕活動等に参加してロータリアンと交流し、日本を知り視野を広めてもらうことです。

現在一年間で約800人の留学生を採用しています。これまで支援した留学生の数は累計で17,028人です。世界121の国と地域に及びます。奨学生の募集は、東海大学、慶応大学、日本大学などの奨学会が指定した学校で説明会を開いて、学校より推薦された候補者を各々の地区の役員が面接し選びます。

現在の学校推薦になった理由ですが、アジアの多くの国々は発展途上にあり、紛争と貧困に苦しみ教育施設などが不足していました。米山奨学金は留学生にとっては夢の奨学金でした。そして1990年代に入って経済的にも留学できる所得層が増えてきました。そして欧米留学が多くなり、日本への留学は減少し、留学の目的も明らかでなく、学力の低い留學生が目立ってきました。こうした留學生事情と急激な経済状況、社会情勢の変化をいち早く読み取ったロータリアンは、大学推薦制度を取り入れました。困窮した留學生の生活支援から、明日を築く優秀な留學生を支援、育成するという形になったわけです。

寄付金についてお話しします。米山記念奨学事業は全国のロータリアンから毎年頂く寄付金だけで成り立っています。2011～2012年度の寄付金は12億9,500万円です。この寄付金は奨学金や地区、世話クラブ、米山学友会などの奨学事業にだけ使われています。奨学会事務局の事務費や人件費などの管理費は資産の利子収入でまかっています。

2011年度の収支報告では収入13億8,926万円で、支出が14億7,140万円、8,213万円の不足です。不足分は特別積み立て財源を取り崩し補填しました。これが続くと積立財源が少なくなり、その利子で管理費をまかっていますので、将来事業が立ち行かなくなってしまう。

そこで今後は留學生の採用人数を現在の800人から700人に減らして、事業費を抑えることとなります。今のところ月々の留學生への奨学金支給額を減らす方向へは行っていません。そこで奨学事業の規模を維持するためロータリアンの寄付をお願いしております。皆様、ご協力お願い致します。

「永い繰り返しでその奉仕の精神」

米山奨学生 齊忠良 君

人生の旅、様々な不思議な出会いがあります。またその出会いがきっかけで人生の転機となるかもしれません。

ロータリーを私の手で握れることは、まるで夢のようでした。学校の先生から米山の奨学生に採用された知らせを受けた時、本当に嬉しかったです。信じられなく先生に二度も確認しました。そしてすぐに両親に電話をし、両親からは、もしチャンスがあれば必ず支援者にお礼を申し上げなければと言われました。しかし、4月のオリエンテーションの際に、支援者が1人だけではなく、多くのロータリアンの皆様、私たちを支援していると気がつき、どうやって、誰に感謝すべきか分かりませんでした。心を込めて出来るだけロータリアンの皆様に握手することでした。あの時のロータリアンの皆様の親しい笑顔と、手の温もりは今でも記憶の中に深く残っています。

米山奨学生に採用されて半年が過ぎましたが、私が日本で暮らした3年間よりも多くのいい思い出が出来ました。オリエンテーションを始めとして多くのロータリアン様、学友と優秀な米山奨学生に出会って、国境を越えて様々な視点で交流して来ました。多くの友達も出来ました。江ノ島で行われたグリーンキャンペーンで、ボランティアとして海岸において清掃活動の奉仕を行いました。その後パーティーをして、自分の手で綺麗にした海岸で会話をし、笑ったり、食事をする楽しさが違いました。皆さんとの交流は一層に深まりました。

1ヶ月の中で、一番待ち望む日は第一木曜日です。家族の様なロータリアンの皆様と会えてとても嬉しいです。例会が始まる前に、一人ずつと握手をします。関心と愛はその形で伝わっています。皆様と一緒に「奉仕の理想」を歌っている時は、多くの思い出が湧き出しました。

7月22日、知的障害者施設「松風園」の方々約200名との、茅ヶ崎サザンビーチで地引網をはじめとする奉仕活動を行いました。私は人のために僅かではありますが、奉仕活動に努めました。その時子供たちの笑顔、そしてご家族の方から感謝の言葉まで頂き、胸が熱くなりました。奉仕とはこのような形のものだと、人生で初めて実感できました。

7月29日、古郡様と鈴木様にお誘い頂き、大和での「阿波おどり」という日本の伝統的なお祭りを体験しました。簡単なステップの様に見えましたが、どうしても上手く踊れませんでした。やはり私は踊りが苦手かも知れないと、苦笑しました。でも来年またチャレンジしたいと思います。

9月9日、家族例会「大江戸文化体験ツアー」を体験しました。日本に来て以来ずっと憧れである、大相撲場所観戦の夢がやっと実現しました。夜には向島花柳界の割烹「水の登」で、美味しい料理と芸妓の演芸を楽しみました。芸妓さんと日本の

伝統的なゲームを体験しました。恥ずかしいことに結局負けましたが、それでもとても楽しい一日を過ごしました。

私のカウンセラーの高橋清様をはじめ、クラブの皆様から、多くの日本文化と日本人に接するチャンスを作って頂きました。そのおかげで、真の日本文化と、ほんの少しですが日本人の考え方に触れることが出来ました。横澤創会長様から、いつも温かい応援メールを頂いており、励まして戴きました。

皆様の関心と励ましから、私は人生にどんな山場でも乗り越える自信と勇気が湧き出しました。本当に皆様のことを心より感謝いたします。

私たちはロータリーと出会い、ロータリーは私たちの手を握り、そして守って頂いています。いつか私たちも必ず同じやり方で次の世代に伝えて行きます。この永遠の繰り返しにより、人の人生の永い永い繰り返しで、その奉仕の精神は永遠に続いていきます。

スマイルボックス 番 桂柳 副委員長

本日 ¥5,000 累計 ¥284,670

横澤 創 会長、入江 公敏 幹事

本日のゲストは米山奨学生の斉忠良君です。両国の関係は、現在厳しい状況にありますが、関係改善を望む声は両国国民の中に沢山あると思います。本日の卓話は安心してお話下さい。どうぞ宜しくお願いします。

鈴木 洋子 君

斉さん、阿波おどり西口風鈴まつりの時は、お手伝

いありがとうございました。本日の卓話楽しみです。

高橋 政勝 君

大和市社会福祉協議会でお世話になっております。10月1日より共同募金運動が始まりました。どこかで見かけたら、宜しくご協力をお願いします。

岸 幸博 君

結婚記念日を祝って頂き、ありがとうございます。



No. 3

クラブ研修リーダー 後藤 定毅

地区大会について

今月10月は、私たちロータリアンにとって重要な集いが、予定されています。20～21日の地区大会です。地区大会は、世界の各地区(RIの管理の便宜上まとめられた一群のロータリークラブの所在する一定の地理的区域)で、毎年ガバナーと地区内過半数のクラブ会長が同意した時期と地区内の場所において開催されることになっています。今年の地区大会のことは、直前年度の時に決定されています。

さてこの地区大会の目的は、ロータリアン相互の交歓と親睦、感銘深い講演を聞き、地区内クラブおよびRI全般に関する問題を討議決議することによって、ロータリーのプログラムを推進することにあります。特に規定審議会が開催される直前年度には、各クラブから起草された規定審議会への立法案の可否を討議したり、規定審議会に送る代表議員一名を選出することにもなっています。本来地区大会には、各ロータリークラブが加盟するRIから、RI会長が出席しロータリアンに親しく挨拶されるのが建前ですが、全世界において開催される地区大会全てに、RI会長ご自身が出席されるのは不可能なので、会長代理が任命されて出席されるのが一般的な習慣になっています。そしてRI会長代理は、期間中はRI会長と同じ立場で、ロータリーの現況を述べる主要な講演をされることになっています。

ご案内のように、今年度も私たちはこの地区大会のために年度当初、既に会費から各人7,500円の負担を地区にしています。近年大会運営のマンネリ化や魅力のなさなど、いろんな観点から地区大会そのものに批判が集中するようになりましたが、それはそれとして、クラブ入会の際に、「奉仕の機会として知り合いを広めること」などのロータリーの綱領の中に示されたロータリーの原則を受諾したはずのロータリアンとしては、一年に1度の地区内のロータリークラブのお祭り、ロータリアンの祭典に参加することは、メンバーとして当然の義務のように感じられますし、参加しなければ内容の良いも悪いもわかりませんし、そう考えなくてもクラブリーダーとして努力する会長幹事の立場には、できる限り惻隱の情を持ちたいものです。

